

農林水産省)の作製によるものである。

- 1) ABRAHAMSON, W. G. (1980): Demography and vegetative reproduction. In Demography and Evolution in Plant Populations (ed. O. T. SOLBRIG) Blackwell Scientific Publications.
- 2) GRANT, V. (1971): Plant Speciation. Columbia Univ. Press.
- 3) 辺見金三郎(1967): 食べられる野草, 保育社.
- 4) 笠原安夫(1974): 日本雑草図説 養賢堂.
- 5) KAWAN, S. and Y. NAGA (1975): The productive and reproductive biology of flowering plants. I. Life history strategies of three *Allium* species in Japan. Bot. Mag. Tokyo 88: 281~318.
- 6) KINGSBURY, J. M. (1964): Poisonous plants of the United States and Canada. Prentice-Hall Inc.
- 7) KURITA, M. and Y. KUROKI (1964): Polyploidy and distribution of *Allium Grayi*. Mem. Ehime Univ., Sect. II. Sci. Ser. B. 5: 37-45.
- 8) 小野蘭山(弘化4年): 重訂本草綱目啓蒙(日本古典全集), 正宗敦夫編, 日本古典全集刊行会(1928年発行).
- 9) PETERS, E. J. (1976): Wild Garlic. Life cycle and control. USDA, Agricultural Res. Service Agric. Inf. Bull. No. 390.
- 10) WILKINSON, R. E. and H. E. JAKES (1972): How to know The Weeds. Wm. C. Brown Company Publishers.
- 11) 山口裕文・山田敏彦(1981): ノビル自生集団の変異——とくに近畿地方の個体群について——. 雑草研究 26(別冊) 119~120.

昭和56年度畑作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和56年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会は、昭和56年12月16日(植調会館), 17日(国労会館)において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、定性試験8剤, 作用性試験23剤, 適用性試験47剤, 転

換畑大豆用除草剤試験9剤, 細粒剤試験8剤であった。

これらの薬剤について、慎重に試験成績を検討した結果、次に掲げる判定表のとおりとなったので、ここに報告する。

昭和56年度 畑作関係除草剤試験供試薬剤および判定・使用基準一覧表

薬 剤 名 (委 託 者)	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (/a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意 その他
1. AH-501 ㊹ 液 (24.0%) 〔旭化成工業〕	ばれいし よ	実・継	茎 葉	萌 芽 前	20 m/	全 土 壤	寒 冷 地 暖 地	継：薬量減の検討 (10 m/a). 適用地域拡大の 検討 (寒地・温 暖地).
	こんにゃ く	実・継	茎 葉	萌 芽 前	20 m/	全 土 壤	寒 冷 地 温 暖 地	継：薬量減の検討 (10 m/a). 効果の確認, 処 理時期の拡大.
2. AH-501 ㊹ 液 (7.7%) 〔旭化成工業〕	ばれいし よ	実	茎 葉	萌 芽 前	30~40 m/	全 土 壤	寒 地	
					30~70 m/		寒 冷 地	
3. AH-502 水和 〔旭化成工業〕	ばれいし よ	実	茎葉兼土 壤	萌 芽 前	20~40 g	全 土 壤	寒 冷 地 温 暖 地	
4. アラクロール 乳 〔ラッソー普 及会〕	落 花 生	実・継	土 壤	播 種 後	30~60 m/	全 土 壤	温暖地東 部	イネ科雑草優占圃場 で使用する. 継：沖積土壌での薬 害検討 (適用土 壌の検討).
						火山灰土	暖 地	
	とうもろ こし	実・継	土 壤	播 種 後	20~40 m/	全 土 壤	寒 地	継：処理時期の検討 (出芽前処理).
	甘 し よ	実・継	土 壤	挿 苗 後	30~60 m/	全 土 壤	温 暖 地 暖 地	継：生食用品種につ いて更に薬害検 討.
	ばれいし よ	実	土 壤	植 付 後	30~40 m/	全 土 壤	寒 地	
5. アラクロール 乳 + CAT 水和 〔ラッソー普 及会〕	落 花 生	実・継	土 壤	播 種 後	30~40 m/ + 10~15 g	火山灰土	暖 地	継：CATの薬量減 の検討. 効果の 確認.
	甘 し よ	実・継	土 壤	播 種 後	30~40 m/ + 10~15 g	全 土 壤	暖 地	継：CATの薬量減 の検討. 効果の 確認.
6. アラクロール 乳 + DNBP 液 〔同 上〕	菜 豆	実	土 壤	播種後~ 出芽前	30~40 m/ + 50 m/	全 土 壤	寒 地	手亡を除く.

薬 剤 名 〔委 託 者〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (ノa)	適用土壌	適用地域	使用上の注意 その他
7. アラクロール 乳+リニュロ ン水和 〔ラッソー普 及会〕	ばれいし よ	継						継：効果の確認，初 年目。
8. アミベン液 〔ユニオン・ カーバイド〕	菜 豆	実・継	土 壌	播 種 後	100～150 m/	全 土 壌	寒 地	継：効果・薬害（品 種別）の検討。
9. アミベン液+ DNBP液 〔ユニオン・ カーバイド〕	菜 豆	継						継：効果・薬害の検 討，初年目。
10. ANK-553 乳 〔ANK研究 会〕	大 豆	中 止						中止：播種前処理は 中止。
	ばれいし よ	実	土 壌	植付後～ 萌芽前	20～30 m/	全 土 壌	全 域	
11. B-3015・P 粒 〔クミアイ化 学工業〕	ばれいし よ	実	土 壌	植付後～ 雑草発生 前	500～600 g 400～600 g	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	
	さとうき び（株出 し）	実	土 壌	中 耕 後	500～600 g	全 土 壌	暖 地 沖 縄 県	
12. BJL-119 +展着剤 〔ビーエーエ スエフジャパン〕	てんさい （直播）	実	茎葉兼土 壌	雑草発生 盛期	40～60 g + 10 m/	全 土 壌	寒 地	
13. BJL-126 （現地混用） 〔ビーエーエ スエフジャパン〕	てんさい （直播）	中 止						
14. CG-119 乳 〔日本チバ・ ガイギー〕	大 豆	実	土 壌	播 種 後	20～40 m/ 20～30 m/	全 土 壌 火山灰土 火山灰土	寒 冷 地 温 暖 地 暖 地	イネ科雑草優占圃場 で使用する。
	小 豆	継						継：薬害の検討，初 年目。
	菜 豆	継						継：薬害の検討，初 年目。

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意 その他
14. CG-119 乳 (つづき) 〔 日本チバ・ ガイギー 〕	とうもろ こし	実	土 壌	播 種 後	20～40 m ^l	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地	イネ科雑草優占圃場 で使用する。
						火山灰土	温 暖 地	
					20～30 m ^l	火山灰土	暖 地	
	てんさい (移植)	継						継：初年目(有望)。
15. CG-119・P 細粒 〔 日本チバ・ ガイギー 〕	大 豆	継						継：初年目(有望)。
	落 花 生	継						継：初年目(有望)。
	とうもろ こし	継						継：初年目(有望)。
	甘 し ょ	継						継：初年目(有望)。 品種間差異の問題。
16. CG-123 フロアブル 〔 日本チバ・ ガイギー 〕	とうもろ こし	実	土 壌	播 種 後	20～40 g	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地	
						火山灰土	温 暖 地	
					10～30 g	火山灰土	暖 地	
17. D-792 水和 〔 デュボン、 ストファー 〕	大 豆	継						継：効果・薬害の再 検討，初年目。
18. DNBPA 乳 〔 北海三共 〕	大 豆	実	土 壌	出 芽 前	40～50 m ^l	全 土 壌	寒 地	
	小 豆	実	土 壌	出 芽 前	40～50 m ^l	全 土 壌	寒 地	
	菜 豆	実	土 壌	出 芽 前	40～50 m ^l	全 土 壌	寒 地	
	とうもろ こし	実	土 壌	出 芽 前	40～50 m ^l	全 土 壌	寒 地	
19. G-315 水和 〔 昭和ローデ ィア化学 〕	大 豆	実・継	土 壌	播 種 後	7～15 g	全 土 壌	暖 地	ナデシコ科・キク科 には効果は劣る。 継：薬害の軽減，地 域拡大。
	こんにゃ く	実	土 壌	植付後ま たは培土 後	10～15 g	全 土 壌	寒 冷 地 温 暖 地	ナデシコ科・キク科 には効果は劣る。
	さとうき び	実	土 壌	植 付 後	10～20 g 但し沖縄県	全 土 壌	暖 地 沖 縄 県	

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意 その他
19. G-315 水和 (つづき)	(夏植え)				は 10～15 g			
	さとうき び (株出し)	実	土 壌	中耕後ま たは排土 後	10～20 g	全 土 壌 (砂土は 除く)	暖 地	
20. HSW-802 乳 〔 北 海 三 共 〕	大 豆	実・継	土 壌	出 芽 前	40～50 ml	全 土 壌	寒 地	継：効果・薬害の検 討。
	小 豆	実・継	土 壌	出 芽 前	40～50 ml	全 土 壌	寒 地	継：効果・薬害の検 討。
	菜 豆	実・継	土 壌	出 芽 前	40～50 ml	全 土 壌	寒 地	継：品種別の検討。
	とうもろ こし	実	土 壌	出 芽 前	40～50 ml	全 土 壌	寒 地	
22. HSW-803 水和 〔 北 海 三 共 〕	大 豆	継						継：初年目。
	小 豆	実・継	土 壌	出 芽 前	30～40 ml	全 土 壌	寒 地	継：薬害の検討。
	菜 豆	実・継	土 壌	出 芽 前	30～40 ml	全 土 壌	寒 地	継：品種別の検討 (手亡)。
	とうもろ こし	継						継：初年目。
23. HW-920 微粒 〔 保土谷化学 工業 〕	さとうき び (夏植え)	実	土 壌	植 付 後	暖地 750～1000 g 沖縄 500～750 g	全 土 壌	暖 地 沖 縄 県	
24. K-253 水和 〔 協和ガス化 学 〕	さとうき び (春植え)	継						継：初年目。
25. K-503 水和 〔 協和ガス化 学 〕	さとうき び (春植え)	継						継：初年目。
26. K-666 水和 〔 協和ガス化 学 〕	さとうき び (春植え)	継						継：初年目。
27. リニユロン 水和 〔 デュポン 〕	大 豆	実	土 壌	播 種 後	15 g	全 土 壌		体系処理：イネ科雑 草対象の既登録茎 葉処理剤を使用す る。
28. M&B-9057 液	さとうき び	継						継：初年目、夏植え ・株出しに適用

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意 その他
28. M&B-9057 液 (つづき) 〔 ロ ー ス ・ プ ー ラ ン ・ ジ ャ パ ン 〕	(春植え)							拡大.
29. MSR-794 水和 〔 丸和バイオケ ミカル・昭和 ローディア 〕	大 豆	実・継	土 壌	播 種 後	15～25 g	全 土 壌	暖 地	継：薬害軽減の検討. 地域拡大.
30. MZ-806 水和 〔 MZ 研究会 〕	とうもろ こし	継						成分未公開.
31. MZ-807 水和 〔 MZ 研究会 〕	とうもろ こし	継						成分未公開.
32. NC-302 乳 〔 日産化学工 業 〕	大 豆	継						成分未公開.
33. NP-48 水溶 〔 日本曹達 〕	ばれいし ょ (秋植え)	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	10～15 m/	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	1) イネ科雑草優占 圃場で使用する. 2) 単剤または体系 処理：広葉雑草対 象の既登録土壌処 理剤を使用する.
34. NP-48水溶 +ピラゾン	てんさい (移植)	継						継：初年目.
35. NP-48水溶 +フェンメデ ィファム	てんさい (移植)	継						継：初年目.
36. NP-55 乳 〔 日本曹達 〕	大 豆	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	15～20 m/	全 土 壌	全 域	● NP-48に準ずる.
	小 豆	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	15～20 m/	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地	● NP-48に準ずる.
	菜 豆	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	15～20 m/	全 土 壌	寒 地	実：NP-48に準ずる. 継：品種別の検討(手 亡).
	落 花 生	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	15～20 m/	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	● NP-48に準ずる.

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意 その他
36. NP-55 乳 (つづき)	甘 し ょ	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	15～20 ml	全 土 壌	温 暖 地 暖 地	● NP-48に準ずる。
	てんさい (移植)	実	同 上	移植後、 イネ科雑 草3～5 葉期	15～20 ml	全 土 壌	寒 地	● NP-48に準ずる。
37. NR-70 乳 〔 日本ロシュ 〕	大 豆	継						継：初年目、有望。 葉量減で検討。
	小 豆	継						
	落 花 生	継						
	甘 し ょ	継						
	てんさい (移植)	継						
38. RO-40 粒 〔 トーメン 〕	とうもろ こし	継						継：作用性の解明。
	ばれいし ょ	継						
	てんさい (移植)	実・継	土壌混和	移 植 前	500～700 g	全 土 壌		継：効果・葉害の検 討（特に多年生 イネ科雑草につ いて）。
39. S-28 乳 〔 U-クレマー ト研究会 〕	とうもろ こし	継						
	ばれいし ょ	実・継	土 壌	植 付 後	30～40 ml 20～40 ml	全 土 壌	寒 地 暖 地	継：地域拡大。
40. SAP・プロ メトリン乳 〔 日本農薬 〕	とうもろ こし	実	土 壌	出 芽 前	60～80 ml	全 土 壌	寒 地	
	ばれいし ょ	実	土 壌	萌 芽 前	60～80 ml	全 土 壌	寒 地	
41. SL-236 乳 〔 石原産業 〕	大 豆	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	7.5～10 ml	全 土 壌	全 域	● NP-48に準ずる。
	小 豆	実・継	茎 葉	同 上	7.5～10 ml	全 土 壌	寒 地 寒 冷 地	実：NP-48に準ずる。 継：葉害の検討。
	菜 豆	実・継	茎 葉	同 上	7.5～10 ml	全 土 壌	寒 地	実：NP-48に準ずる。 継：品種別検討(手亡)。

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (／a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意 その他
41. SL-236乳 (つづき)	落 花 生	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	7.5～10 ml	全 土 壤	温 暖 地 暖 地	● NP-48に準ずる。
	甘 し ょ	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	10～20 ml	全 土 壤	温 暖 地 暖 地	実: NP-48に準ずる。 継: 低薬量の検討 (7.5～10 ml)。
	ばれいし よ	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	5～10 ml	火山灰土	温暖地東 部	実: NP-48に準ずる。 継: 薬量・適用土壌 拡大, 地域拡大 の検討。
					7.5～10 ml	全 土 壤	暖 地	
	ばれいしよ (秋植え)	実・継	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	7.5～10 ml	全 土 壤	温 暖 地 暖 地	実: NP-48に準ずる。 継: 効果確認(初年 目)。
	てんさい (移植)	実	茎 葉	イネ科雑 草3～5 葉期	7.5～10 ml	全 土 壤	寒 地	● NP-48に準ずる。
42. SR-793 水和 〔昭和ローディア, 日本化薬〕	大 豆	継						
43. SSH-41 水和 〔塩野義製薬〕	落 花 生	継						継: 初年目。
	とうもろ こし	実・継	土 壤	播種後～ 出芽前	20～25 g	全 土 壤	寒 地	継: 効果・薬害の確 認, 地域の拡大。
					10 g		暖 地	
44. SSH-43 水和 〔塩野義製薬〕	さとうき び (夏植え)	実	土 壤	植 付 後	10～20 g 〔ただし砂 土～砂壌 土は10～ 15 g〕	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	
45. SSH-43 粒 〔塩野義製薬〕	さとうき び (春植え)	実	土 壤	植 付 後	600～800 g 〔ただし砂 土～砂壌 土は200 ～400 g〕	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	
	さとうき び (夏植え)	実	土 壤	植 付 後	600～800 g 〔ただし砂土 ～砂壌土は 200～400 g〕	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	
	さとうき び (株出し)	実	土 壤	中耕後又 は排土後	600～800 g 〔ただし砂土 ～砂壌土は 200～400 g〕	全 土 壤	暖 地 沖 縄 県	
46. TAW-19 水和	大 豆	継						継: 効果・薬害の再 検討。

薬 剤 名 〔 委 託 者 〕	対象作物	判 定	処理方法	処理時期	使用量 (ノ/a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意 その他
46. TAW-19水 和 (つづき) 〔 トモノ農薬 〕	ばれいし よ	継						継：効果・被害の再 検討。
47. トリフルラリ ン粒 〔 塩野義製薬 〕	ばれいし よ	実・継	土 壌	植付後～ 雑草発生 前	400～500 g	全 土 壌	寒 冷 地 温暖地西 部 暖 地	継：効果の確認 (初 年目)。温暖地 東部での確認。

昭和56年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和56年度水稻・畑作関係生育調節剤(材)試験成績検討会は、昭和56年12月18日(金)国鉄労働会館(東京都千代田区丸の内1-11-4)、19日(土)植調会館(東京都台東区台東1-26-6)において開催された。その結果の概要は、次の通りである。

水稻作関係生育調節剤試験は、作用性 9 剤(47点)、適用性10剤(70点)について実施された。試験のねらいから健苗育成、倒伏軽減、登熟向上、乾燥効果に大別され、健苗育成はイソプロチオラン粒剤、NK-191 粉剤、GF-030 液剤の3 剤がむれ苗防止をねらいとして実用化可能と判定され、使用基準が作成された。

倒伏軽減は、BAS-106W粒、S-327 水和剤、PP-333 粒剤、CGR-811水和剤の4 剤が供試され、それぞれ有望と考えられるが、さらに作用性の明確化、あるいは適用条件の検討が必要とされた。

登熟向上ではタチガレン液剤は前年通りの使用基準で実用性が確認され、SZ-8028 液剤と

籾乾燥効果のR-452 乳剤はさらに適用条件の検討が必要と判断された。

一方、畑作関係生育調節剤は、作用性 1 剤(1 点)、適用性 2 剤(6 点)の試験が行なわれた。

KT-30 液剤(サトウキビの発芽促進、茎の肥大等)は、作用性の明確化が必要とされ、C-MH 液剤(馬鈴薯の萌芽抑制)は、前年度通りの使用基準で実用性が確認された。また、HOK-811 水溶剤(馬鈴薯の茎葉枯凋)は、さらに継続検討が必要とされた。

マルチ資材では、5 材(8 点)の試験が行なわれ、SPD フィルム、ロボフィルムは崩壊時期の面でさらに改良が必要と判断され、KO マルチフィルム、サッソーホーリーシート、ユーラックトンネルマルチについては、年次変動などさらに継続検討が必要とされた(詳細は次号に掲載する)。

なお、薬剤別の判定結果および実用化薬剤の使用基準は、次表の通りである。